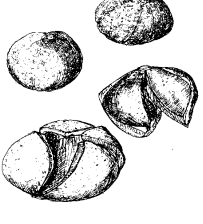


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
せー8	せいひ 青皮	苦・辛・温 肝・胆・脾・胃	3~9g、煎服。丸、散に入れてもよい。
中医生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説			
中医生薬解説			
 <p data-bbox="352 617 688 682">オオベニミカン・コベニミカン の成熟前の果皮</p>		<p data-bbox="730 371 2005 430"><b>疏肝破気</b> 肝鬱気滞の胸脇部が張って痛む、憂鬱、いらいら、怒りっぽいなどの症候に、柴胡・鬱金・香附子などを用いる。</p> <p data-bbox="730 439 2005 474">気滞血瘀による肝腫、脾腫には、丹参・鼈甲・莪朮などを用いる。</p> <p data-bbox="730 483 2005 519">肝鬱化火による乳癰（乳腺炎）には、蒲公英・栝楼・橘葉などを用いる「橘葉栝楼散」。</p> <p data-bbox="730 528 2005 563">気滞痰凝による乳房の腫塊には、貝母・夏枯草・穿山甲などを用いる。</p> <p data-bbox="730 572 2005 608">寒滞肝脈による疝気（ヘルニアなど）の腫脹、疼痛には、烏薬・木香・小茴香などを用いる「天台烏薬散」。</p>	
		<p data-bbox="730 617 2005 652"><b>消積化滯</b> 食積による腹満、腹痛、腐臭のある噯気、呑酸などの症候に、神麴・山楂子・麦芽などを用いる「青皮丸」。</p>	
		<p data-bbox="661 697 703 727">参考</p> <p data-bbox="730 697 2005 727">疏肝には醋炒した方がよい。</p> <p data-bbox="730 736 2005 765">橘皮と青皮は同一物で老嫩の違いがあり、効能も異なっている。</p> <p data-bbox="730 774 2005 804">橘皮は成熟した果皮で、薬力は緩和で軽くて上浮し、脾肺の気分を理し、行気健脾、燥湿化痰にすぐれている。</p> <p data-bbox="730 813 2005 905">青皮は未成熟な果皮で、性質が峻猛で沈降下行し、肝胆の気分を疏し消積化滯にも働く。それ故、「陳皮は上浮し、脾肺に入り高きを治して通を主る、青皮は沈降し、肝胆に入り低きを治して瀉を主る」と概括されている。肝病が脾に及び肝脾不和を生じた場合には、両者を用いるのがよい。</p>	
		<p data-bbox="661 934 703 964">使用上の注意</p> <p data-bbox="730 934 2005 964">性質が峻烈で元気を損傷するので、気虚には用いない方がよい。</p>	